

インターネット上のモラル意識の変動に関する考察

山口大学総合情報処理センター
村田 孝子
murata@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

インターネット上の情報倫理に対して、早急に教育を実施することが大きな課題となっている。そこで、2年度にわたり情報倫理の重要性あるいはそれらに対する問題意識が、インターネットユーザ達にどの程度保有されているかについて大学生を中心に調査し、モラル意識のレベルとその変動の要因を探り、今後の情報倫理教育のあり方を明らかにした。

A Study on Change of Moral Consciousness on the INTERNET

Takako Murata
Integrated Information Processing Center
Yamaguchi University
murata@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

The increasing popularity of the Internet has caused quite a stir in the information ethics. The author has been investigating on the formation of moral consciousness through the information processing education especially in higher education. This paper presents the results of the investigation on levels of moral consciousness for these two years in the relation with the syllabus and the teaching method.

1. はじめに

ここ2~3年の間に世の中のインターネットに関する関心が急速に高まりつつあると同時に、様々な問題がネットワーク管理に携わる者あるいは一般のあらゆる人々に投げかけられている。インターネットの利用が学術・研究のみならず商用や個人の趣味など多岐に渡るに連れ、そこには匿名性をおびた情報が日々増加している。インター

ネットユーザの増加とともに「情報の発信および受信を行う上でネットワーク特有のモラルが存在し、それを認識しなければならない」という観念が急速に薄らいだ方向に向かっているのは鬱わしむべき現状である。インターネットというコミュニケーション手段をもっと質の高いものを持っていくのは利用者一人一人の自覚をまつしかないが、基本的なモラル意識は初期の教育的な指導により

ある程度育てることができるのではないかと考えている。そこで、筆者は1997年、1998年と2年間続けてきたモラル意識のアンケート調査から、社会的影響やモラル意識の形態などを比較検討し、それらの結果からどのような情報倫理教育を行っていくことが最善の方法であるかを探り、その方法をいかに今後の情報教育に生かしていくべきかを考えてみた。

作成したアンケートの基本構造は、被調査者の属性（フェースシート）項目およびモラル意識項目である。フェースシートは、被調査者の「学部」「学年」「性別」「パーソナルコンピュータ（以下PCという）の所持の有無」「コンピュータ使用歴」「授業歴」「ネットワーク歴」「インターネットへの関わり方」など13項目から成っている。モラル意識関連項目は「セキュリティ」「電子メール（以下メール）」「電子ニュース（以下ニュース）」「WWW」「共有資源」「フリーソフトウェア（以下フリーソフト）」などに関する事項の44項目である。調査は、第1回が1997年12月～1998年2月、第2回は1998年6月～7月に行ったが、解析結果の標記はそれぞれ第1回目を1997年度、第2回目を1998年度とした。調査の対象者は本学の学生で、1997年度が645名、1998年度は618名であった。

これらの調査結果に基づき、対象の学生を後述する方法により高モラル群と低モラル群に分類し、またモラル意識を「知識」と「行動」に分けて被調査者のモラル意識がどのような形態を示しているかを考察した。さらに、大学のコンピュータ教育の影響をまだそれ程強く受けていることがなく、社会的な影響がそのままの形で反映されているとみなされる1年次の学生を対象に、1997年度と1998年度の間に社会的流れの変化がモラル意識の変化として現れているかを考察した。ただし、1年次の学生は、1998年度はほぼ全学部において当該科目が必修であるのに対して、1997年度の学生は学部によって選択科目となっており履修の方法が多少異なる。この点から1997年度の学生が興味・関心、および知識の点でやや勝っている

傾向が強い可能性があることを念頭に入れおくべきであろう。

2. 被調査者の属性

調査項目のフェースシートより、1997年度および1998年度の回答者のコンピュータ所持の有無、コンピュータ歴、ネットワーク歴について調べ、その結果を表1に示した。以下に述べるように顕著な現象としていくつかのことがわかった。

まず、被調査者全体を対象に調べると

1. 両年の間にはコンピュータ歴を除いて著しい変化は認められない。その中、「コンピュータ歴なし」と回答した者は、前年から約26%増加している。
2. しかし、ネットワーク歴については「入学以前にインターネットに接続をしていた」者に多少の変化（前年より約5%増加）が見られる。

これらのことから考察されることは、コンピュータ歴にこのような現象が起きたのは、前述したように1997年度と1998年度では履修方法の影響がここに現われているのではないと思われる。

一方、1年次生のみを対象に検討すると、

1. PCの所持では、前年と比較すると所持している者に約19%の増加が認められる。
2. しかし、PCの所持率が前年よりあがっているにも関わらずコンピュータの経験年数は高くない。
3. ネットワーク歴についてみると、「入学以前インターネット接続をしていた」者が前年と比べると約7%上回っている。

これらのことから推測できることは、PC所持率が前年度より上回ったのは学部学科によっては入学時にPCを購入させているので、その結果が現われているとみなされる。また、インターネット接続は、入学以前に学生個人のコンピュータで行われていたということではなく、家庭で誰かがインターネット接続をしておりそれを利用していた結果と考えられる。ここに現在の社会現象の一端が窺える。

表1 1997年度および1998年度の被調査者の属性(数値は構成比%)

属性		全体		1年次生	
		1997年度	1998年度	1997年度	1998年度
PC所持	持っている	33.4	32.9	15.8	34.5
	持っていない	48.0	47.3	65.4	44.8
	購入予定	16.2	18.2	17.6	19.0
	予定無し	2.4	1.7	1.7	1.6
コンピュータ歴	なし	39.4	65.7	60.4	72.3
	1年未満	23.3	17.7	26.4	15.0
	1～3年未満	25.7	12.2	7.7	7.9
	3年以上	11.7	4.4	5.5	4.9
ネットワーク歴	入学前PC通信	1.8	1.4	1.8	1.7
	入学前internet	1.9	7.0	3.0	9.7
	入学後	96.3	91.5	95.2	88.5

3. モラル意識の構造変化

ここでは、前節で述べた状況の中で、モラル意識の構造変化を調べてみた。すなわち、被調査者を「モラルの高い者とモラルの低い者」というグループ（以下モラルレベル群という）に分類し、両年のモラル意識の差異を調べて考察を行った。

3-1. モラル意識の定義

各被調査者のモラル意識の分類に、モラルレベル群の指標となるアンケートの設問 Q14 から Q17 の項目を使用した。その内容を下記に示す。

Q14 ネットワーク上にモラルやエチケットが存在することを知っていますか

Q15 ネットワーク上のエチケットのことをエチケットという言葉で表現するのを知っていますか

Q16 インターネット上に情報を発信するのは、個人の「自己責任」ですべてを行うのを知っていますか

Q17 インターネット上では、個人が情報の被害者になるだけではなく加害者にもなりうるということをあなたは認識していますか

これらの各項目に、それぞれに肯定的（はい）に

応答した場合は1点、否定的（いいえ）に応答した場合には2点を与え、回答者別にモラルレベル得点というべき点数を計算した。

3-2. モラル意識の状態とモラルレベルの詳細

モラル意識の状態は、モラルレベル得点から集計された値をみると、最もモラルの高い者（高モラル群と名付ける）が4点、最もモラルの低い者（低モラル群と名付ける）が8点となり、各被調査者はその間に分布する。そして、高モラル群と低モラル群は、上位1/4と下位1/4にあたる数になる。ただし、低モラル群は、8点の者に加え7点の得点者も含めた。

1997年度と1998年度のモラル意識の状態を表2に、モラルレベル毎の回答分布の詳細を表3に示す。なお、表3において4点と8点の得点者を掲げていないのは、Q14からQ17の回答に対して、4点の者は全て「known」と応答し、8点の者は「unknown」と応答（数値は表2を参照）しているため省略をした。

表2 モラル意識構造の状態(数値は構成比%)

モラルレベル		全体		1年次生	
		1997年度	1998年度	1997年度	1998年度
4点	高モラル群	28.6	20.6	29.8	14.4
5点		31.2	36.4	29.8	44.2
6点		14.4	19.5	13.3	20.3
7点	低モラル群	12.6	9.6	17.1	9.2
8点		13.2	14.0	10.0	11.9

表3 モラルレベルごとの回答分布(数値は構成比%)

		5点				6点				7点			
		全体		1年次生		全体		1年次生		全体		1年次生	
		1997年度	1998年度	1997年度	1998年度	1997年度	1998年度	1997年度	1998年度	1997年度	1998年度	1997年度	1998年度
Q14	Known	30.3	36.2	27.6	44.2	8.6	14.6	9.9	15.7	2.8	3.6	5.0	3.8
	Unknown	0.9	0.2	2.2	0.0	5.8	4.9	3.9	4.6	9.7	6.0	12.2	5.4
Q15	Known	4.4	2.4	7.7	0.0	0.8	0.5	2.2	0.3	0.3	0.2	0.6	0.3
	Unknown	26.8	33.9	22.1	44.2	13.7	19.0	11.6	20.0	12.2	9.4	16.6	8.9
Q16	Known	28.3	34.4	26.0	44.2	7.5	9.1	5.5	8.9	1.7	1.0	1.7	1.1
	Unknown	3.0	2.0	3.9	0.0	6.9	10.4	8.3	11.4	10.8	8.6	15.5	8.1
Q17	Known	30.1	36.0	28.2	44.2	11.9	14.8	9.9	15.7	7.7	4.9	9.9	4.1
	Unknown	1.1	0.3	1.7	0.0	2.5	4.7	3.9	4.6	4.9	4.7	7.2	5.2

以上の結果から両年度のモラル構造の変化を考察すると、次の2点のことが窺える。

1. 表2より、前年度と比較すると高モラル群でのモラルは低下の傾向にあるように見えるが、必ずしもそうとは言い切れない。すなわち、表3に示したように各項目を詳細に調べると5点から7点のモラルレベル群について、従来から語り継がれてきている「ネチケット」(質問項目Q15)という言葉を知らない者が増加している。このことが構造を変化させている要因となっていることがわかる。
2. 第2節で既に述べたように、1998年はその属性からPCの普及、インターネット接続の普及が前年度より上回っていた。しかし、それに関わらずモラル意識は低い結果を示している。このことはPCやインターネットの普及に対してそれらを扱うモラル意識が追従しきれていない結果であり、ここに大きな問題があると考えられる。従って、この結果からも今後のコンピュータ教育のあり方について中・高校生のカリキュラムの中に体系的な情報倫理教育を組み込んでいく重要性を裏付けることができる。

次に具体的にどのようなモラル意識が変動しているかを「知識」と「行動」に分け、その実態を対比することにより考察を行ってみた。

4. モラル知識とモラル行動についての考察

昨年、筆者は1997年度のデータにおいて調査表の設問項目(Q18~Q57)を「保有することが望ましい知識」と「望ましい行動」に大別し、それらの設問項目の中からいくつかを抜粋し、それに対して前述で定義した「高モラル群」「低モラル群」がどのように応答しているかを調べた結果を報告した¹¹⁾。両者には「望ましい知識の保有」という点で大きな差があることが判明されている。また、「望ましい行動」については、低モラル群では、いくつかの設問に対してかなり高い水準で肯定的応答が見られたが、やはり設問項目全体に極めて低い応答結果を示し、高モラル群においても「知識」と対比すると応答に多少のバラツキが見られた。これらのことをまとめて考えると高モラル群といえども「モラル知識」は保有しているものの、それらを具体化する実際の「モラル行動」はまだ不十分であるという知識と行動の乖離があることが判明している。また、コンピュータ歴があり高学年になるほど「高モラル群」に属している者が多いという結果が得られている。

そこで、同様の手法で1998年のデータについても調べてみた。その結果、表4および表5に示したように、「望ましい知識の保有」において低モラル群ではほとんどの項目が40%以下であるのに対して高モラル群では50%以上の回答率を示し「知識」の点では大きな差が認められる。また、「望ましい行動」について、前年同様低い応答率を示している。このように全体的な傾向は前

年度とほぼ同じ結論が得られた。

表4 望ましい知識の保有に関する両群の比較(数値は構成比%)

知識についての設問	望ましい知識	高モラル群		低モラル群	
		1997年度	1998年度	1997年度	1998年度
良いパスワード、悪いパスワードがあるのを知っていますか(Q24)	知っている	56.4	64.0	9.4	13.3
メールには自分の署名が必要だと思いますか(Q27)	礼儀だと思う	91.2	86.4	82.3	81.8
メールのサブジェクトや本文に半角カタカナは使ってはいけないということを知っていますか(Q33)	知っている	47.0	24.8	10.8	13.9
電子ニュース(以下ニュース)はメールと形態が似ているところがあるのでメールと同じ礼儀やモラルをわきまえて行動すべきだという意見をどのように考えますか(Q39)	そのように思う	76.9	79.8	38.4	40.7
電子掲示板またはチャットなどで自分の名誉を傷つけられるような発言を見つけたとき、名誉毀損で訴えることができると考えますか(Q43)	仮想空間のことであっても訴えることができる	56.0	54.8	25.3	20.8
他人のHP上に自分の気に入った画像があり、それをダウンロードして別の画像と組み合わせて改変したとき、元画像の作者に許可をとることが必要だと思いますか(Q47)	公表する場合は許可が必要となる	74.2	71.2	41.8	29.7
フリーソフトウェアは、著作権がなかったり、放棄されているわけではなく、プログラムの実行や複製を自由に持って良いという条件で配布されているということを知っていますか(Q54)	知っている	47.0	31.5	10.3	5.6
ネットワークやコンピュータの資源を他人と共有しながら使用していることを意識していますか(Q56)	意識している	73.1	64.8	20.7	22.1

表5 望ましい行動形態に対する両群の比較(数値は構成比%)

行動についての設問	望ましい行動	高モラル群		低モラル群	
		1997年度	1998年度	1997年度	1998年度
初期パスワードを変更していますか(Q18)	全て変更している	47.0	52.9	9.0	14.9
パスワードを他人に教えたことがありますか(Q20)	教えたことはない	90.0	93.2	74.8	92.6
メールの本文は、1行35文字程度に納めることが常識といわれていますこれについてどのように考えますか(Q29)	守っている	59.4	49.6	10.0	7.0
ニュースやメーリング・リストに投稿する時に揚げ足などをとる行為は控えるべきだという意見がありますが、どのように考えますか(Q41)	揚げ足など取るべきではない	41.8	43.6	23.9	23.5
自分のホームページ(以下HP)を作るために、他のHPへのリンクを張るときどのように対処するか(Q44)	HP上の注意書きに従う	25.8	17.1	6.4	6.9
有害情報が載っているHPを見つけ自分のHP上でそのアドレスを紹介したりリンクを張ることについてどう思うか(Q48)	場合による	38.1	40.8	12.7	17.0
あきらかに共有を前提としていない個人所有のディレクトリやファイルを見つけた時にどう思いますか(Q51)	本人の了解がない場合は内容を見たりコピーをして編集をしてはいけない	68.1	62.4	30.4	31.3
コンピュータにログインした状態で長い間席を立つ時の処置についてどのように考えますか(Q52)	ログアウトするか画面ロックする	95.6	97.6	79.3	82.5
フリーソフトウェアに配布条件が書いてありましたが、他人に譲渡することについてどのように考えますか(Q55)	配布条件に従わなければならない	63.7	55.2	21.5	19.4

次に、このような現象が、まだ教育経験の浅い1年次生にどのように現われているかを見るためにモラルレベルを考慮せずに「知識」と「行動」の実態を調べ、さらに兩年を対比してみた。これは、特別な情報倫理教育を受けていない人々が社会的影響をどのように受けているかを探るためでもある。

1年次生に対して「望ましい知識の保有」「望ましい行動」に対するそれぞれの設問項目(Q18からQ57)に正しく応答している者を集計し、1997年度と1998年度の差を計算した。その結果を表6および表7に示した。これらの表におけるプラス値はモラル意識の向上、マイナス値は後退とみなし、モラル意識の変化を調べた。

表6 1997年度および1998年度における1年次生の望ましい知識の保有に関する意識変化(数値は構成比%)

望ましい知識	1998年度	1997年度	差
良いパスワード、悪いパスワードがあるのを知っていますか(Q24)	33.9	20.8	13.1
メールで単なる文字のみの挨拶状のようなものを送り、受信した相手のコンピュータを破壊することができますか(Q34)	57.6	52.9	4.7
マクロ・ウイルスというコンピュータ・ウイルスを知っていますか(Q35)	21.6	16.9	4.7
マクロ・ウイルスは、マイクロソフト社のWordやExcelなどで作成したファイルに組み込まれてメールなどで添付ファイルとして転送されてくることを知っていますか(Q36)	12.6	9.3	3.3
フリーソフトウェアは、著作権がなかったり、放棄されているわけではなくプログラムの実行や複製を自由に行って良いという条件で配布されているということを知っていますか(Q54)	13.3	11.5	1.8
ニュースやメーリング・リストでの発信は個人メールと異なり不特定多数の人を相手にしていることをわきまえるべきだという意見がありますが、どのように考えますか(Q40)	58.5	58.2	0.3
ネットワークやコンピュータの資源を他人と共有しながら使用していることを意識していますか(Q56)	42.0	42.9	-0.9
電子ニュース(以下ニュースという)は、メールと形態が似ている所があるのでメールと同じ礼儀モラルをわきまえて行動すべきだという意見がありますが、どのように考えますか(Q39)	55.2	57.1	-1.9
チェーンメール(メール本文に「このメールを読んだら、さらに複数人のお友だちに送って下さい」という幸福[不幸]の手紙の類で、ねずみ算的にその数が増加していくメールを言う)が届いたとき、どのように対処しますか(Q30)	9.6	13.6	-4.0
電子掲示板またはチャットなどで自分の名誉を傷つけられるような発言を見つけたとき、名誉毀損で訴えることができますか(Q43)	38.1	42.1	-4.0
メールで受け取った文章を差し出し人の了解を得ずして公開することについてどのように思いますか(Q28)	70.8	75.4	-4.6
メールのサブジェクトや本文に半角カタカナは使っていけないということを知っていますか(Q33)	17.0	23.5	-6.5
ある新聞が報道している事実の伝達記事(解説記事など個人の意見が述べられているものは除く)を自分のHP上で紹介するために、スキャナーなどでとり掲載することは、新聞社の許諾を必要としますか(Q46)	13.7	20.4	-6.7
メールには自分の署名(シグネチャ)が必要だと思いますか(Q27)	82.9	90.8	-7.9
自分が撮った写真の中に偶然見ず知らずの他人が入っているとき、それをそのまま自分のHPに載せる場合にその人の承諾を必要としますか(Q50)	24.8	32.8	-8.0
他人のHP上に自分の気に入った画像があり、それをダウンロードして別の画像と組み合わせて改変したとき、元画像の作者に許可をとることが必要だと思いますか(Q47)	45.1	56.8	-11.8

表7 1997年度および1998年度における1年次生の望ましい行動に関する意識変化(数値は 構成比%)

望ましい行動	1998年度	1997年度	差
あなたは他人にパスワードを教えたことはありますか(Q20)	92.7	85.3	7.4
あなたは自分がアクセスできる全てのコンピュータシステムの初期パスワードを変更していますか(Q18)	29.4	26.4	3.0
あなたは、自分のパスワードを誰でも見ることができる用紙などに書いていますか。また、用紙に書いてあるとしたら他人がみることができるようになっていきますか(Q21)	35.6	32.8	2.8
あなたは他人がコンピュータに向かってパスワードを入力しているときに、その手元やキーボードを覗いたことはありませんか(Q23)	80.0	77.5	2.5
「XXXXというサブジェクトのメールは、ウィルスなので、注意してください」というメールが送られてきたとき、どのように対処しますか(Q31)	85.6	84.3	1.4
ニュースやメーリング・リストでの発信において何かを引用するときは引用元を明言すべきだという意見がありますが、どのように考えますか(Q42)	42.2	41.3	0.9
あなたは他人と一つのアカウント(ログイン名、パスワード)を共有したことがありますか(Q22)	97.5	96.8	0.8
有害情報が載っているHPを見つけ、自分のHP上でそのアドレスを紹介したりリンクを張ることについてどのように思いますか(有害情報とは、猥褻画像や反社会的情報などのこと)(Q48)	19.0	18.7	0.3
あなたに対するいやがらせ・中傷または攻撃的なメール(このようなメールをフレミングといいます)を受け取ったとき、どのように対処しますか(Q38)	11.8	13.7	-2.0
コンピュータにログインをした状態で長い間席を立つときの処置について、どのように考えますか(Q52)	91.0	93.3	-2.3
他人の振りをしていたづらに気軽な気持ちで電子メール(以下メールという)を送る人がいますが、それについてどのように考えますか(Q26)	87.5	90.3	-2.8
自分が撮った友人の写真を自分のHPにその友人の承諾を得ずに載せることについてどのように考えますか(Q49)	30.1	33.3	-3.2
ニュースやメーリング・リストに投稿するときに揚げ足などをとる行為は控えるべきだという意見がありますが、どのように考えますか(Q41)	31.3	35.3	-4.0
自分のホームページ(以下HPという)を作るために、他のHPへリンクを張るときあなたはどのように対処しますか(Q44)	7.4	13.7	-6.3
あなたは一度パスワードを設定したら、同じパスワードを使い続けていますか(Q19)	5.9	12.3	-6.4
メールなら相手に姿が見えないので個人を傷つけるほどの文句を並べてメッセージを送る行為をする人がいますが、これについてどのように考えますか(Q37)	84.8	92.4	-7.5
フリーソフトウエアに配布条件が書いてありましたが、他人に譲渡することについてどのように考えますか(Q55)	28.4	36.1	-7.7
あきらかに共有を前提としていない個人所有のディレクトリやファイルを見つけたとき、どのように思いますか(Q51)	40.2	48.1	-7.9
メールの本文は、1行35文字程度に納めることが常識と言われていますが、これについてどのように考えますか(Q29)	15.4	25.1	-9.8
偶然他人のメールを読めることを発見したとき、本人の了解なしに読むことについてどのように思いますか(Q32)	65.3	76.1	-10.8
コンピュータを使っていたが、自分では原因がわからないトラブルが生じて動作しなくなったとき、どのように対処しますか(Q53)	71.9	83.1	-11.2

その結果以下のことが考察できる。

1. 「望ましい知識の保有」においては、「パスワード(Q24)」「マクロ・ウィルス関係(Q34、Q35、Q36)」「フリーソフトの著作権(Q54)」などの16問中6問でしか意識の向上が見られない。しかし、向上しているとはいえ保有する知識の値としては決して高い値とは言えない。例えば、「良いパスワード悪いパスワード(Q24)」は、約13%の向上があるものの各年度の値は33.9%と20.8%にすぎない。全体的に「知識」は低下の傾向にある。
2. 「望ましい行動」においても向上している項目は少ないが、項目内容を詳細に見ると「パスワード(Q18、Q20、Q21、Q22、Q23)」に関する項目が多少向上している。しかも、Q20、Q22、Q23などは両年ともに80%以上とかなり高い意識を示している。
3. また、「望ましい知識の保有」「望ましい行動」の両者ともに意識の分布パターンは、変化がなく全体的にモラル意識は低下している。

これらをまとめると、モラル意識の低下は、現在の社会的現象を反映していることを示しているといえる。また、パスワードに関する「行動」について向上がみられたのは、教授側にとって、「パスワードを変更させる」という行為を示すことができ、学生側はその際にその重要性を多少なりとも学び取ることが容易であるということが、モラル意識の向上に繋がったのではないかと考えられる。

5. 今後の教育のあり方への示唆

本学では、1年次の情報リテラシー教育の教科書に「情報倫理」について数ページをさいて注意を喚起したが、実際にモラル意識として浸透しているかどうかは今回の調査結果の解析からは疑問が残った。

前節で述べたパスワードの例などを考えると、「何かを」示し「何故そのように行わなくてはならないか」という明確な理由、そして「どのように対処（対策）するか」の実践という具合に直接的教育を実施することにより「知識」と「行動」の乖離が避けられるものと考えられる。具体的な一例として、「ネットワークに負荷を及ぼすようなネットワークゲームに興じる」、「必要も無い大きなファイルを保存しておく」などのことが何故「やってはならない行為」なのかということに対する説明に、「ネットワークやコンピュータは共有資源である」という知識を持たせ、上記の行動をすることによって起こり得る現象を実際に体験させてみるというような教育方法も考えられる。故に「間違った知識」を持つことから派生する「迷惑を被る行動」の事実を列挙していき、そこから「正しい知識・行動」が得られるといった例示を明確に示したテキストなどを作成することが必要ではないだろうか。さらに「知識」という点で、学生側ばかりの知識低下の問題ではなく、教授側の無知から起こる問題もあると考えられるので、むしろ、教授側の「何を、どのように、どうやって」教えるという明解なマニュアルを作成すべきなのかもしれない。現在、これ迄のいくつかの

例^{[2][4]}を参考にしながら、それらを実際にシミュレーションできるような教育プログラム作りを計画している。

インターネットの基本的理念を考えると加害・被害の発生防止を「監視・処罰」という形ではなく「指導・教育」により達成させるということが最も望ましい姿であると考えられるが、現在の社会現象を見ていると法による規制に頼らざるを得ない場合も出てくるであろう。しかし、インターネットの成り立ち、そして、もっと有効に利用する手だてなどを、初等・中等教育課程の中で実施することによって、これからのネットワーク社会を発展させていかなければならないと考える。

謝辞

調査に協力して下さった山口大学共通教育情報処理教育部会および授業担当の教官、学生、アンケートの作成に当たり回答選択肢中の法的解釈を必要とする部分に助言をいただきました山口大学経済学部 立山紘毅助教授、さらに本稿をまとめるに当たり助言いただきました山口大学総合情報処理センター長 小嶋直哉教授に感謝いたします。

参考文献

- [1] 村田孝子：ネットワーク上の「モラル」についての意識調査(2) 高モラル群と低モラル群の比較による教育指針、平成10年度情報教育研究集会論文集、pp.385-388、1998
- [2] 辰己丈夫、原田康也：初等中等教育の情報倫理教育のあり方について、情報処理学会コンピュータと教育研究会、98-CE-50、pp.33-40、1998
- [3] 高橋、西野、山上、河俣、泉、中島、金田、乾、北野：高等学校段階におけるインターネット活用と情報倫理教育、情報処理学会コンピュータと教育研究会、98-CE-50、pp.101-108、1998
- [4] 長谷川、井戸坂、下村：インターネットを教育現場に導入する際の課題と対策についての研究、日本教育工学会誌、Vol22、Suppl.、pp.49-52、1998